

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F142310111201	設置等組織名	工学部（工学科）、総合情報学部（総合情報学科）
大学名	長崎総合科学大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	長崎	事業計画名	先端グリーン・デジタル技術を駆使し次世代をつくるスーパーエンジニアの育成

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1		1-① 令和6年5月「新学部設置準備室」を設置 1-② 令和6年6月 調査・検討・準備開始 1-③ 令和6年7月 「グリーン・デジタル産業分野教育協議会」の開設・意見交換会開催し協議開始 1-④ 令和6年8月 他大学、海外連携大学・機関との協議開始（ダブルディグリー、クロスアポイントメント含） 1-⑤ 令和6年8月 新棟概要設計開始 1-⑥ 令和7年4月 新棟基本・実施設計開始 1-⑦ 令和7年4月 新学部 認可申請書作成開始 1-⑧ 令和7年6月 新学部 認可申請事前相談 1-⑨ 令和7年10月 新学部 認可申請 1-⑩ 令和8年3月 新学部 認可補正申請 1-⑪ 令和8年8月 新学部 募集開始	①令和6年5月「新学部設置準備室」を設置 ②令和6年6月 調査・検討・準備開始 ③令和6年7月～11月「グリーン・デジタル産業分野教育協議会」参加企業への依頼開始 ④令和6年8月～12月 他大学、海外連携大学・機関との協議開始（ダブルディグリー、クロスアポイントメント含） ⑤令和6年8月～7年3月 新棟概要設計開始 ⑥令和6年12月 第1回「グリーン・デジタル産業分野教育協議会」開催（26社） ⑦令和6年12月 中国の海外連携大学として2大学とMOU締結（ダブルディグリー） ⑧令和7年2月 「グリーン・デジタル産業分野教育協議会」の参画企業との企業研究セミナー開催 ⑨令和7年3月 高校生参加の公開講演会開催	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2前倒し		2-① 令和7年10月 新棟建設着工		○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出		令和6年4月 工学部工学科及び総合情報学部総合情報学科の定員減の届出 令和8年3月 先端グリーン・デジタル理工学部先端グリーン・デジタル理工学科（仮称） 設置認可申請予定	令和6年4月 工学部工学科及び総合情報学部総合情報学科の定員減の届出		
フェーズ1後倒し				○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2		2-② 令和9年2月 新棟竣工・引渡し		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増		令和9年4月 先端グリーン・デジタル理工学部（仮称）開設予定（入学定員170人、理学関係、工学関係）			
フェーズ2後倒し				○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	3-① 令和9年4月 新学部 一期生受入開始 3-② 令和9年4月～ 自走化への取り組み（募集戦略の強化、自治体・企業・海外連携科目の新設・実施、講演会）			○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
				○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止		令和6年4月 工学部工学科50人減員（入学定員100人、工学分野）、総合情報学部総合情報学科10人減員（入学定員75人、工学分野）にかかる届出	令和6年4月 工学部工学科50人減員（入学定員100人、工学分野）、総合情報学部総合情報学科10人減員（入学定員75人、工学分野）にかかる届出		

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	長崎総合科学大学
-------------	-------	-----	----------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td><td></td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。					
	<table><tr><td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。					
	<table><tr><td>認定を受けておらず申請する意向もない</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	長崎総合科学大学
-------------	-------	-----	----------

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）
- チェック

■ チェック

■ チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

b.関連分野に強みを持つ地域他大学と連携した科目の整備・実施

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.企業連携科目として県内の企業と連携し、グリーン・デジタル関連の最前線で実務に携わる方の経験や課題を、課題解決型学習とアダプティブラーニングを駆使して教授いただく。卒業研究に企業との共同研究を取り入れ、現実的な課題の解決に向けた研究や、学会発表や企業への成果報告などが体験できる形にする。自治体連携科目として、周辺自治体、特に長崎市・大村市・諫早市等において、自治体が抱える課題の解決に向けた研究を学部卒業研究などでとりくむ事ができるよう、市との協力関係を結ぶ。サステナブル・スマート・キャンパスを自治体との協力の基で実現し、教育に活用する。 b.他大学との連携した科目として、長崎大学、活水女子大学、長崎外国語大学と連携科目を設ける。例えばDX・GX技術の最前線を学ぶフォーラム関連科目を共同開催したり、クロスアポイントメントによる文理融合型コースの共同運用を実施する。これらを可能とする制度の制定に向けて、フェーズ1で他大学と協議を行う。 c.海外大学と連携して、海外の最新DX・GX施策を学ぶ短期留学プログラムを設ける。DX分野ではトリノ工科大学、カリフォルニア工科大学、大学ではないがCERN(欧州原子核研究機構)、GXではオールボー大学、ETHチューリッヒなどと既に共同研究をしている教員を通し、卒業研究生を国際共同研究に参加させ、海外研究者とともに学ぶ試みを行う。	a.令和7年度から、企業連携科目として、工学キャリア科目と総合情報学キャリア科目を10科目（各1単位）開講することを令和6年度に決定した。また、自治体連携科目については、令和6年度に締結した南島原市との「デジタルを活用した脱炭素社会構築へ向けた連携協定」に基づき協議を開始した。 b.他大学との連携科目については、大学コンソーシアム長崎における「NICEキャンパス長崎」において、データサイエンス入門、電気電子計測など11科目を提供し、67人が受講した（https://nicecampus.nagasaki-chiikiedc.jp/subject/）。また、本コンソーシアムにおいては、令和7年3月に「出張！オープンキャンパス 2024」を共同開催し、受講者の拡大を行った（https://consortium.nagasaki-chiikiedc.jp/opencampus/）。 c.令和6年12月には、CERN（欧州原子核研究機構・ジュネーブ）に修士課程1年の学生を約1ヶ月派遣し、素粒子・原子核実験によって生み出される大規模データを解析するためのデータセンターの構築プロジェクトに参加させ、国際的な開発プロジェクトを経験させるという試みを実施するなど準備を進めている。教育効果は非常に高かったとみられるため、新学部設置後は修士課程だけでなく学部の卒研究生などいむゆる「サマースクール」のような形で同様の経験ができるプログラムを構築するよう提案をしていく予定である。	

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- チェック

■ チェック

■ チェック

■ チェック

■ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.文系生徒も志願しやすいようなよう、フレキシブルに受験科目を選択できるようにするなど受験科目を見直し、多様な入学者の確保を図る。 b.総合型選抜において、各学部それぞれに数名ずつの女性枠を設ける。さらに、周辺文系大学と協力して、女子学生が志望しやすいような文理融合型コース・プログラムを創設し、女性志願者数の確保を図る。 c.小中学生を対象に「ちものづくり体験」の開催や「ながさき土曜学習習応援団」といった体験学習への参加を通して地域の小中学校との連携を深める。附属高校については「大学講義の先取り履修」を実施し高大連携を強化する。また、教員による高校への出前講義や実習の無償提供や、県内SSH指定校のサポートを強化していく。 d.クォーター制により勉学のための派遣期間が短くなる長所を使い、社会人に対してのリスキリング教育などの連携を容易にする。さらに、周辺大学との単位互換制度の枠組みを用いて、オンラインで受講可能な無料科目を提供する。 e.別科日本語研修課程の受け入れ体制を強化し、JICAと協力してASEANからの留学生を広く受け入れる。また、ダブルディグリー導入により、留学生増を図る。提携校としてはASEANの大学とフェーズ1で協議を開始する。	a.令和6年度に、令和7年度の工学部一般選抜の数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B、総合情報学部一般選抜の数Ⅰ、数Aの試験問題の内容を現役の高校数学教員に作問を依頼し、文系受験者でも受験しやすい内容に改善した。 b.令和6年度に、令和7年度以降の入学者選抜から、総合型選抜に女性枠（8名）の枠を設け、DX・GXに強い関心を持ち、一定の基礎学力があり、将来ビジョンや学修意欲が明確で、論理的思考力やコミュニケーション力のある人を募集し、4名が入学した。さらに、文理融合型コースを実現するため3つのコースプログラムと名称を変更する計画を立てた。 c.令和6年8月に「長崎総合科学大学ものづくり体験」を開催し、約700名の小中学生が参加し、理工系分野の楽しさを体験した。また、令和6年度に令和7年度から日商アソシエイトマスターという日本商工会議所のPC検定3級を取得することが出来る認定を全国で初めて設立し、1年生科目に「情報基礎」、「AIリテラシ」、「データサイエンス概論」などの開講を決定した。各科目を履修することでAI・データサイエンスを学びながら、「文書作成」、「データ活用」などの知識や技能を身につけ、同時に資格を取ることが出来るよう文系生徒も志願できるようにした。高校生はこれらの科目を先取りして単位取得の成果を総合選抜試験に利用し、本学への進学に結びつける道筋も準備した。工業や商業高校からの入学者も期待できるようにした。附属高校については令和6年度から「大学講義の先取り履修」として、17名が受講した。また、本学教員による高校への出前講義と、高校生の皆さんに本学へ来ていただきたい学内の施設や設備を利用して実際に体験していただく体験実習の2種類からなる本学主催のNiASセミナー（出前講義・体験学習）を令和6年度は22件実施し、726名が受講した（https://www.nias.ac.jp/files/uploads/niasseminar.pdf）。 d.本学では、長年に亘り、長崎県造船組合や長崎県産業労働部と連携して就業者の職能の向上のための造船講座や溶接講座を行ってきた実績があり、令和6年度は、本学の授業「船舶CAD」（船舶工学コース専門科目・前期水曜3～5時限目開講）の4～5時限目を社会人履修証明プログラムに対応する形で準備した。また、長崎県内大学で運営する「NICEキャンパス長崎」において、「長崎学Ⅰ・Ⅱ」等を社会人に対しても開放した。 e. ASEANからの留学生の受け入れに向けて令和6年度にJICAとの協議を開始した。また、令和6年12月に中国の臨沂大学及び広州理工学院大学とダブルディグリーの協定を締結した。	

大学名	長崎総合科学大学
-----	----------

本事業対象となる学部等の個数	1
----------------	---

1.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	先端グリーン・デジタル理工学部先端グリーン・デジタル理工学科（仮称）

[illegible]

大学名	長崎総合科学大学
-----	----------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	235	175																	
		入学者数	人	187	171																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	235	175																	
		入学者数(B)	人	187	171																	
		入学定員充足率 (B/A)	倍	0.80	0.98																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	940	880																	
		編入学定員	人	***	***																	
		在籍者数(D)	人	745	732																	
		編入学者数	人	***	***																	
		収容定員充足率 (D/C)	倍	0.79	0.83																	

4.外部資金の状況（全学）

年度		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況		選定－6年	選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定													
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	87,957	79,566	92,200	173,552	149,911	225,206													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得 額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の 平均）(E)	千円	110,023
本事業による助成金の額(F)	千円	1,038,052
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	135,974

特記事項